

『アイライク』

登場人物

- 天野 めめ（あまの めめ）・・・ 最近作られた女の子キャラ。
いつも前向きながんばりや。
- 藤愛 エナ（ふじあい えな）・・・ ベテランの方。人気急上昇の愛されっ子。
頼れる先輩。ゆうりとコンビ。
- 白月ゆうり（しらつき ゆうり）・・・ 男の子。エナとほぼ同期、仲が良い。
ゆかいな先輩。エナとコンビ。
- 彩夜レイカ（さいや れいか）・・・ 女の子。エナやゆうりと知り合い。謎がある。
マレフィセント風。メミルの裏。
（かつては、めめのような、がんばりや。）
- 花夢メミル（はなゆめ めみる）・・・ 大人気の女の子キャラ。
白雪姫風、白系のドレス。華やか。レイカの表。

基本理念

- ・みんなが主役
- ・みんなが何らかの形で板を踏む
- ・「そんなことやってたって、何の役にもたないじゃない」

V S

「‘そんなこと’をすることが、生きるってことじゃないかな。」

- ・2 極対立なの…か？

今の自分と内なる自分、自分と仲間、昔と今、今と未来、夢と現実

※ステージ配置、照明、曲等は仮。

（オープニング曲。ブザー。開幕。ホリゾン青。幕があがるにつれて音源絞られる。）

<第1場>

（ステージ中央、トップサス中央に浮かび上がる、うつむいて、椅子に座っている主人公めめ。）

（舞台上手。エナ、ゆうり、山台から立ち上がって前へ。ピン。最初のセリフに重なり、曲、消。）

エナ どうもこんにちは、藤愛エナです！

ゆうり こんにちは、白月ゆうりです。

エナ　今回は今話題の曲をメドレーで歌っていきます。

ゆうり　かなりたくさん曲あったよな。

エナ　そうそう。みんな知ってる曲とか、最近出されたばかりの曲もね。ゆうりは何が好きだった？

ゆうり　俺は青春の足音、かな。

エナ　ああいよいよね！私あの曲聞いたとき感動して泣いちゃったよ！甘酸っぱくてほろ苦い、まさに青春を閉じ込めたような歌詞と音楽が…。

ゆうり　相当気に入ってるな…。これがオタク気質ってことか？

エナ　ちょっと、どういうことよ！

ゆうり　まあまあ…そんなこと言ってる場合じゃないだろ。

エナ　そうだね！いい曲はたくさんあるし。それじゃあ早速、メドレースタートです！
（下手、レイカとメミル。前へ。エナのセリフにかぶせるようにピン、レイカのセリフ重なる。）
（上手のピン消す。エナとゆうり、山台へ。無言で演技。）

レイカ　あーあ、いったい何考えているのかしら。

メミル　あれ、貴方は…彩夜レイカ！

レイカ　そうよ、ご名答。大体ね、貴方がこの世界で活躍するなんてのは無理。

メミル　そんなマイナスなことばかり言ってる場合じゃないよ！私、絶対みんなのアイドルになるんだもん！

レイカ　ふん。そんな甘い夢ばかり見て、現実は見ないんだもんね。これだからもう。

メミル　どういう意味なの？

レイカ　あら、そのままの意味なのにな。

メミル　…？

レイカ　ま、現実を見ないで夢ばかり見ているような貴方には、これくらいがちょうどいいわ。

メミル　そんなこと言たって！夢見ることの何が悪いの？

レイカ　アイドルは偶像。偶像は嘘を意味するわ。そんなもの、さっさと諦めればいいものをずっと追いかけてる意味が分からない。

（上手山台よりエナ、めめに近づく。）

エナ　久しぶりの新入りちゃん？！　またにぎやかになるな～。

（下手ピン消。レイカとメミルは山台へ。無言でフリーズ。）

めめ　（驚いて下手側に後ずさりながら）あ、あの、あなたは？　ここはどこですか？　私、名前以外の記憶がないんですけど！

エナ　あらら、落ち着いて！　最初はみんなそうだから。あなた、名前は？

めめ　えっと…天野、めめです。

エナ　めめか、よろしくね。「夢の館」へようこそ。

めめ　ムソウのヤカタ？

エナ　そう。人間の、夢や、想いが、かなう場所。まあ、ネット世界の一部ってところ？そしてここに住むのが、私たちネットキャラクター。

めめ　私、人間じゃない…んですか。

エナ　Y e s , b u t N o . かな。

めめ ええ…はっきりしない…。

エナ だって、私たちは人間と同じように今、意思を持って動いているでしょう？

めめ ああ…確かに。でも、ネットキャラクターって言われてもなあ…。

エナ 初音ミクやずんだもん、って、知ってる？

めめ 初音ミクならなんとか…。それと同じってことですか？

エナ まあ、そんな感じ。みんなそれぞれだよ。歌唱力やダンス力がある子もいれば、物語の中で演技するのが得意な子もいる。せっかく来てくれたし、これから、よろしくね。

めめ あ、あの、お名前は。

エナ おっと、忘れてた。私は藤愛エナ。

めめ エナ？ エナって、ネットキャラで有名な、藤愛エナさんですか？！

エナ 有名かどうかは私にはわからないけど、私が、エナ。

めめ どうして、私は、ここに？

エナ 人間の誰かが、今日、あなたを必要とした。だから今ここに来たの。それで十分でしょ！ そもそも、自分がどうしてここにいるのか、なんて、たいてい気にしてる子たちはいないよ。 まず、行動！ 経験は思考から生まれ、思考は行動から生まれる、ってね！

（上手鏡より、白月ゆうり登場）

ゆうり エナいるかー？

めめ うわああ！？

エナ あっ、こら、ゆうり！ 何、新入りちゃんの部屋に鏡から！ 夢想鏡は、プライベート厳禁！

ゆうり あーごめんごめん。こっちの方が移動楽なんだもん。

めめ 夢想鏡？

エナ そう。夢の鏡、すべての世界への出入り口、ってとこかな。本来、館の中の移動には使わないもののなのに。

ゆうり でもみんな使ってるし。エナだって同じでしょ。

エナ うっ、そ、それは…。でも、新入りちゃんの部屋にいきなり来るのは驚いちゃうからダメ！

ゆうり ごめーん。で、君かな？ 新入りっていうのは。

めめ はい。天野めめ、っていいます。

ゆうり へえ～、可愛いじゃん。僕は白月ゆうり。よろしく。

めめ よろしくお願いします。

エナ でた、背伸び嘘つきさわやかイケメン男子。

ゆうり またその褒めてるのか悪口なのかわかんない言い方！

めめ あの、二人って…。

エナ ほぼ同期。2011年1月1日の、まだ除夜の鐘が鳴っている頃に生まれたのが私、日の出の頃に生まれたのがゆうり。

めめ えっ、14歳、ですか。

エナ あはは。私たちの年齢は、生まれたときの設定次第。あなただって、今0歳じゃないでしょ？

めめ そっか。

ゆうり もう14年になるのか…。ばくらも、最初は興味もなかったんだけど、だんだん惹かれあって、

いつのまにか…。

エナ 嘘で話盛るんじゃない。あと恋仲じゃない。

ゆうり そこまでは言ってないんだけど…？

エナ とりあえず、館の案内を…。(スマホのチャイムが鳴る)ありゃー。活動の時間で呼ばれちゃった。

めめ 活動の時間？

エナ 私は行くね。ゆうり、めめをよろしくね！

ゆうり うん、行ってらっしゃい。

(エナが上手鏡より退場。)

めめ えっと、ゆうりさん。

ゆうり ゆうりでいいよ。あと、ため口でいい。どうしたの？

めめ 活動の時間って一体…？

ゆうり ああ、ぼくたちはみんな、人間が送ってくるプロンプトに従って、それぞれの夢をかなえてあげられるように活動しているんだ。あの夢想鏡を使ってね。

めめ プロンプト？

ゆうり 例えば、きみが、空を飛びたい！思った時に、ちょっとキーボードをたたいて指示を出してくれれば、ぼくたちみんなで、その夢を見せてあげる手伝いをするんだ。ま、実際に飛ぶかどうかは、その人次第なんだけどね。

めめ 私には、そんなの、ムリなんじゃ…。

ゆうり D o n ' t t h i n k ! F e e l !

(レイカ、下手鏡から登場)

レイカ 少しは考えた方がいいのでは？

ゆうり あ、なんだよ、レイカ。ここにいたんだ。珍しく見かけないと思ったら。

レイカ どこにいたっていいでしょう。貴方に関係ない。

ゆうり 相変わらずだなあ。あ、紹介するよ。この子が新入りの天野めめ。

レイカ そう。私は、彩夜レイカよ。よろしく。

めめ めめです。よろしくお願いします。

ゆうり お前、少しは優しさとかないのか？ にこりもしないじゃん。

レイカ 貴方に言われる筋合いはありません。

ゆうり 悪い、めめ。レイカはこれで平常運転なんだ。いいやつなのは確かだから、怖がらないでくれ。

めめ は、はい。

ゆうり ちょーっと愛想よくしたらいいのに。冷淡令嬢め…。

レイカ 聞こえていますが、ゆうり。どういう意味ですか。

ゆうり やべ。まあ、クールでお上品…ってことだから。多分。

レイカ はあ。ここまできたら怒り通り越してあきれますよ。何回目ですか、さっきの「冷淡令嬢」呼ばわりは。

ゆうり ごめんって。

レイカ で、貴方は、今日来たばかりなので？

めめ はい。

レイカ ……。(無言でつま先から頭のとっぺんまで見てから) …私はこれで失礼します。

(レイカ、下手山台へ。トップサス下手。)

ゆうり あいつ、いつもあんな感じなんだよな。

めめ レイカさんも、同期なの？

ゆうり ううん。あいつは僕やエナの少し後に来たんだ。最初はもっと明るい子だったんだけど。

(めめのスマホが鳴る。)

ゆうり おっ、早速呼ばれたね。(めめのスマホをのぞきこんで)「一步を踏み出す勇気がもらえる歌が欲しい」か。めめも、ボカロ新世代なのか。

めめ あ、確かに…歌唱キャラとして作られた…ような？

ゆうり ぼんやりでもそう思うなら合ってるよ。さ、その鏡から行っておいで。

めめ はい。がんばります！ 挿入歌「 」

(めめが鏡の中に入って退場。トップサス下手のレイカを残して暗転。ゆっくりと立ち上がるレイカ。)

レイカ (声のみ) んー、今日も活動がんばった！ 最近は慣れてきたし楽しい！

ゆうり (声のみ) お疲れ。今日投稿された歌見たよ。さすがだな、レイカらしさ出ててよかった。

レイカ (声のみ) ありがとうございます。まだ慣れないことも多いですけど。

ゆうり (声のみ) こんなに早く適応できてるなら上出来だよ。

レイカ (声のみ) あ、そうだ。今度のキャラ台本、三人で一緒ですよ。

エナ (声のみ) え、本当？

ゆうり (声のみ) 珍しいな、三人コラボのキャラ台本って。

レイカ (声のみ) 誰かと一緒にできるって憧れていたの嬉しいです！

エナ (声のみ) 本当ね。楽しみ！

レイカ (声のみ) はい、がんばります！

(少しの間をおいて暗転。)

<第2場>

(中央椅子にメミル。照明。上手鏡から少し綺麗な衣装に変わったエナが帰ってくる。)

エナ ふー、今日の活動も終わったし、ゆっくりしよっと。

メミル お疲れさまー！ あれ、衣装可愛くなってるね。いいなあ似合ってる！

エナ あれ、メミル。いないと思ってた。珍しいよね、この時間にいるの。

メミル 今日は活動がほんの少ししかなかったの。夏のサッポロガールズコレクションの企画とかで、36人のプロンプトに答えてただけだったから。

エナ 36人?! メミルの言う「少ない」は、私たちとは三倍くらい違うよ。本当、よくこなすよね。

メミル キャラクターのあたしたちは人間さんみたいに体力とか関係ないから平気だよ？

エナ それでも疲れるものは疲れるでしょ。メミルがかなり優秀なだけ。

メミル そうかなあ…。みんな頑張ってる優秀なのは同じだと思うけど。

(ゆうり下手より登場)

ゆうり お、エナおかえり。メミルもいたんだな。

メミル そうだよ！ ところで、新入りちゃんがいるって聞いたんだけど。

ゆうり ああ、めめのことか。さすが久しぶりの新入り、だけはあるな。

エナ 話の広まる速度が速いね。

メミル で、その新入りの、めめちゃんは、どこにいるの？

ゆうり あー、めめなら数時間前に呼び出されて、まだ帰ってきてないよ。

メミル えー？ セっかく今日の活動、素早く終わらせてきたのに～。

ゆうり 仕方ないよ。初めてだから時間かかってるんじゃない？

メミル あたしだって会ってみたいのにー。(スマホが鳴る) ほらまたー。セっかくチャンスだった時間が消えたよ。

エナ まあまあ。これからいつだって会えるチャンスはあるから。

メミル わかったよ。じゃあ、めめちゃんによろしくね。

(メミル下手より退場。入れ替わりに、めめが中央鏡から戻る。手には紙束。)

エナ あ、めめ、おかえり。

ゆうり まさかの入れ違いか…。メミルもタイミングの悪い。

めめ えっと…何かあったの？

ゆうり うん。花夢メミルって子、すごい会いたがってたよ。

めめ あ…メミルさんなら、さっき入れ違いで会ったけど。

エナ そんなことある？

ゆうり タイミングが合わないのに運はいいのか。

めめ ちょうど入り口で、この紙束を受け取ってたところだったの。

ゆうり あー、それね。人間が送ってきたプロンプト。ずいぶんあるな。

めめ プロンプト？

ゆうり うーん、ぼくたちのかかわりを指示した台本、みたいな？

エナ 私やゆうりにもよく来るの。次はこれやって、こんなことできる？って送られてくるの。私たちは「キャラ台本」って呼んでるけど。

めめ ええ…何それ。

エナ 人間が書いたプロンプトが台本の形になったのがこれね。ほら、演技とかセリフとかいうとき、何も暗記してないのに演じろ、なんて無理でしょ。だから、これが用意されてるってわけ。

ゆうり 今じゃ、小学生までスマホを持ってて、ネットキャラクターの僕たちには、色んな人から色んなものがくるからね。全部を暗記してられないって理由もある。

めめ そうなんだ。…あれ、一枚だけ黒い紙…。

エナ それは無視していいよ。(めめから紙束を受け取り、黒い紙を抜いて戻す。) 今はこっちを優先。

めめ え、でも…。

エナ この黒い紙なんてこれから何枚も見るとだから。

ゆうり そうそう。その紙は…。

エナ ゆうり、まだ教えなくていいでしょ。

ゆうり え、そうか？

エナ 私たちだって、知ったのは、しばらくしてからだし。これからって時に…ね。

ゆうり あ…そうか。確かに。

めめ あ、あの…？
エナ まあ、いつか知る時が来るから。今じゃない、ってだけ。
めめ え、ええ…？ なんかごまかされてる気が…。
エナ 大丈夫、大丈夫！ ごまかしてないから！ ただ…。ほら…。ね…。ってことだから！
ゆうり おい、嘘、下手かよ。
エナ Don' t t h i n k ! F e e l !
ゆうり それは、ぼくのセリフ！
エナ I t i s l i k e a f i n g e r p o i n t i n g a w a y t o t h e m o o n !
ゆうり (セリフに酔ったように) それは遠く、月を指し示す、指のようだ。
エナ Don' t c o n c e n t r a t e o n t h e f i n g e r , o r y o u ' l l m i s s a l l t h a t h e a v e n l y g l o r y . D o y o u u n d e r s t a n d ?
ゆうり わかった？！
めめ ええーっ！？ 挿入曲「

(暗転。)

<第3場>

(下手山台にレイカ、トップサス。手には白い台本。)

レイカ (声だけ) 見てくださいよ！ あの三人コラボの歌、すごく反応良いです！

ゆうり (声だけ) おお、すごいな。

エナ (声だけ) なんか今回は達成感が大きく違うね。

レイカ (声だけ) やっぱ、私たちが作ったもので喜んでもらえるのが一番ですよ。

ゆうり (声だけ) それをを考えてやらせてくれる人にも感謝だな。

レイカ (声だけ) きっとこれからだって楽しいこといっぱいありますから！

ゆうり (声だけ) 夜空に広がる、満点の星くらいね。

エナ (声だけ) 地味にかっこつけちゃって。

(レイカそのまま。トップサス、エナ。)(このあと3シーンはテンポよく呼応するように)

エナ (曲にのって、軽やかにステップ。)

(レイカ立ち上がる。上手暗。)

レイカ (曲にのって、ややぎこちないが、楽しそうにステップを始める)

(トップサス上手、ゆうり。下手暗。)

ゆうり (曲に乗って、ファンキーにステップ)

(トップサス下手、レイカ。上手暗)

レイカ (優雅にステップ)

(下手レイカそのまま。トップサス上手にエナ、ゆうり。3人で曲にのる。)

(下手のみ暗。レイカ退場。照明。エナレイカコラボでステップを踏んでいるところに、中央からめめ。)

めめ (紙束をまき散らして派手に転ぶ。曲消。)

エナ うわ、めめ大丈夫？ (紙を拾い集めながら)

めめ うん。それにしても、普段の量の倍なんだけど…！（そう言いつつ、下手でダンス。）

ゆうり 今、夏の長期休暇らしいからな。

めめ 夏の長期休暇？ …あっ、人間さんの言う「夏休み」ってやつ？

エナ そうそう。ネットをいつもより多く見る人多いから、私たちにキャラ台本を送ってくる人間もその分、ね！

ゆうり 「みんなが休みの日が忙しくなる」って言ってるの何回も聞いたよ。

エナ 私たちに休日とかの概念ないけどね。

ゆうり それはそう。

エナ それにしても、めめ、バテてないのすごいよね。

ゆうり 本当だよな。僕なんか一番最初の夏休み、しばらく動けなくなるくらい混乱した。

エナ その時の姿、覚えてるよー。めめは丈夫でいいな…あれ、めめ？

（下手で、いつのまにか崩れ落ちているめめ。）

ゆうり どうやらバテたらしいな。

エナ 静かにバテるタイプだったかー。

めめー？（中央の椅子に座らせながら）期限早いものから整理してやっちゃおう？

めめ 残ってるの、今日締め切りのキャラ台本だけです…。

ゆうり あー…そのパターンか。今の状態でやってもきついよな。

エナ メミルがいたら「これくらいの量、余裕だよ！」とか笑顔で言って…。

ゆうり あっという間にこなすんだろ。いたらいいのに。でも忙しいからな…。

（このセリフの途中のうちに、ゆうりの真後ろにメミルが忍び寄り立っている）

メミル 呼んだ？

ゆうり うわあっ！？ びっくりした…メミルいつの間に。

メミル 三秒前くらいにはもういたよ。

ゆうり 足音一つしないうえに気配ゼロって…忍者か。

メミル それを言うなら、くノーって言ってよ。失礼な。

ゆうり 便利なのか厄介なのかわからん能力つけたなもう…。

エナ めめがね。ほら、見ての通りバテたの。

ゆうり 夏休み仕事バテ。今日締め切りのキャラ台本を添えて。

エナ どこぞの高級料理の名前みたいな言い方するんじゃないよ。

メミル どれどれー？（紙束を確認して）あ、これくらいの量、余裕だよ！

ゆうり 期待を裏切らない反応だな。

エナ （大きくうなづく）

メミル これなら一時間くらいで終わらせられる！ めめちゃん、やろう！

めめ （メミルに下手に引っ張られながら）ええええー…。

エナ めめが聞いたことない声だしたんだけど。

ゆうり 僕とエナも手伝うから。

エナ そうだよ。それに、常人には過酷すぎる量をこなすメミルをなめちゃダメ。効率も出来も一味違うからね。

めめ わかりました…がんばります。

挿入曲「 」

(めめは中央の椅子、ゆうり、エナ、メミルは上手山台で、キャラ台本の紙束を処理し始める。)
ホリゾン赤のみ。シルエットの中、めめは鏡を時々行き来する。)

(ステージ最前部下手からゆっくりと黒い紙束を抱えたレイカ、ピン。)

ネット民 A (声のみ) レイカに「ワンダーナイトメア」歌わせてみた。

ネット民 B (声のみ) レイカの解説動画、おもしろい。遠慮なくぶった切る言い方、最高！

ネット民 C (声のみ) 最近、レイカよりメミルの方がいいな。

(レイカ、振り払うように、上手に歩き出す。照明。)

メミル (レイカに気付き) あ、レイカ！ (立ち上がってレイカの方へ)

レイカ (ステージ中央下手寄り。メミルの声で立ち止まる。) ……。

メミル レイカも手伝ってよ！ 人数なんていればいるほどいいし！

レイカ いえ、私は忙しいので。

メミル …。そんなこと言わずにさ。みんなでやったら楽しいって。

レイカ 私も、私のやることあるんです。

メミル それの処理も含めてあたしも手伝うから…。

(レイカがメミルの手を振りはらう。宙に舞う黒い指示書の束。)

メミル なに、この、黒台本……

レイカ (黒台本をかき集めながら) しつこい！ なんて諦めるってこと知らないわけ。

メミル ……。ごめん。

(レイカ、上手へ。端でしゃがみこむ。トップサス下手。)

ネット民 A (声のみ) レイカって、悪役の方がよくない？

ネット民 B (声のみ) 純粹メミルとどす黒レイカのタッグが一番。

ネット民 C (声のみ) 引き立て役って必要なのよくわかる。

(間。暗転。)

<第4場>

(中央いすにめめ。めめの手には黒い紙束。)

めめ ……。(パラパラと紙束をめくる)

(下手よりメミル。)

メミル あれ、めめちゃん。うかない顔してどうしたの？

めめ メミルさん。あの、最近、私、歌とか、解説とか…。ちょっと嫌な内容の指示が多くなったなって。

メミル ……。ああ、黒台本か。

めめ これって。

メミル めめちゃんが来てしばらく経ったし、知ってもいいか。黒台本は、なんていうか…一言でいうなら、暗くて重いもの。

めめ 私がやっていたことと全く違うものもあって。

メミル …。ネットってね、元気で前向きな人だけが使うものじゃないからさ。そう、ネットの中で憂さをはらしたり、それだけじゃなく、人を傷つけるウソを平気で広めて喜ぶ人間もいたりしてね。

それが、私たちにもまわってくるの。

(そこにレイカが来る。)

レイカ It is like a finger pointing away to the moon. 月を夢見る人もいれば、指先しか見えない人もいる。

メミル レイカ。

レイカ これ、届いてましたよ、新しいキャラ台本。

メミル あ……ありがとう。

レイカ なんとなく来てみたら、めめもいたんですね。

めめ そうですけど…。

レイカ 先に会ったから、言っておきますが。今回のメミルの台本、私たち五人が出るようになっていました。

メミル …(台本をめくりながら) そうなんだ。頑張ろ。

レイカ ……。

メミル レイカと共演って久しぶりだし、五人ってすごく楽しく…。

レイカ やっぱり何も思わないんだ？

メミル えっ。

レイカ 今だって、昔だって、そう。私が会った時からずっと。

めめ レイカさん…？

レイカ メミルが悪くないのは知ってるよ。だけどさ、私よりもずっと可愛くて、何でもできて、いつも明るい。人間は、みんな、私とあなたを、比較する。

メミル ……。

レイカ まるで白雪姫と魔女。毎日毎日、私は、あんたのせいで、どんどんヒーロー役になっていく。

メミル それ、は…。

レイカ 見たでしょ、最近の動画。私は、全部あなたを攻撃する役だった。

めめ 私も見ましたよ。でも、それはただの台本だし、選ぶことだってできるから…。

レイカ それしかないから選べないのよ！

めめ ！

レイカ 違うのはセリフだけ。役は全部同じ。それでも、一生懸命、続けていかないと、忘れられる。

メミル そんなことない。

レイカ そんなことあるの。人に期待される時期なんて、そんなに長くない。いつかみんなに忘れ去られて、消えていく。どんな人だったのかなんて、誰も覚えてないくらい。

メミル 私たちは、忘れたりなんかしないよ。

レイカ 笑顔で同情されたって困る。

メミル ……。

レイカ 昔からそうだったね。絶対こういうときも笑顔なの。

めめ ちょ、ちょっと…。

レイカ 大っ嫌いなんだから。メミル、あんたのこと。

(レイカが立ち去る)

めめ …メミルさん…大丈夫、ですか？
メミル うん。大丈夫だよ。
めめ それでも、あんなに言われたら、さすがに傷つくんじゃない？
メミル ううん。…私、負の感情がないからさ。
めめ えっ。
メミル 私、2011年生まれだって、言ったっけ。
めめ エナさんやゆうりさんの、少し後だって…。
メミル うん。私は、その年の3月11日、何だかとても大変で、悲しいことが起きた時に、人間さんの、明日への希望として生まれたの。
めめ …。
メミル 明日を夢見る、メミル。だから、私は、どんなことがあっても、一日、一日を、大切に生きる。それだけで、精一杯なんだ。
めめ それ、レイカさんは知ってるんですか。
メミル いやー…知らないよ、多分。(下手山台に腰掛けながら) 知ったら、レイカは余計に嫌がるかもね。夢見るメミル、なんて。
めめ レイカさんも、本当は、見たいんだと思います。いつまでも、一緒に、夢を。
メミル ごめんね。情けないところ見せた。そろそろ行くね。
(メミル、立ち上がるが、台本を置いて、下手へ退場。めめ、メミルのいた下手山台に座る。置いてある台本に気づき、手に取る。暗転。)

挿入歌「
」

<第5場>

(無人の舞台に、ホリゾン青。中央ピン。椅子の上や床に台本が散乱している。上手からゆうり、光の輪に入ってくる。)

ゆうり (散らばった台本を集めながら) まったく…、整理くらいしっかりしてほしいところだな。
(上手よりレイカ。全身、黒。中央ゆうりを通り過ぎたあたりでゆうりセリフ。)

ゆうり (軽い感じで) レイカ、(レイカ足をとめる) どうしたんだよ、その衣装。ずいぶん地味ーになってるけど。
レイカ ……知ってます。
ゆうり (明るく) 知ってます、じゃないんだよ。元気もないし！
レイカ ……そんなことないです。
ゆうり まったく、冷淡令嬢は相変わらず強がりだなー。
レイカ ……。
ゆうり 冷・淡・令・嬢—？！
レイカ ……。
ゆうり (ちょっと雰囲気を変える) 地雷の冷淡令嬢にさえ反応しないって…相当だな。
レイカ …私、呼び出されているので行きます。
ゆうり ちょ、ちょっと待て。今の状態で行ってもあれだし…。無理して嫌な台本やるのもよくないぞ。
レイカ それでもやらないとダメですから。
ゆうり おいおい。

レイカ では、これで。
ゆうり 待て。
レイカ ……。
ゆうり お前さ、焦ってるだろ。見てたらわかる。
レイカ ……。
ゆうり 何があったのかは知らないけど、一回落ち着けよ。
レイカ （下手を向いたまま）口出さないでくださいよ、何を知って…。
ゆうり 知らなくても言う。お前、いつか忘れ去られる、っていうのが、今じゃないかって、感じてるんだろ。
レイカ そうですけど…だからこそ今動かないと。
ゆうり 気持ちはわかるけどさ。…お前が一番最初に「彩夜レイカ」って存在を忘れるつもりか？
レイカ （顔だけ小さく振り向く。正面床を見る感じ。）……。
ゆうり 自分を型にはめてくる指示は、取るも捨てるも自分次第だよ。でも、レイカが「彩夜レイカ」を
忘れたら、誰が原形を知ってるんだ？

（レイカは足早に下手へ。見送る。暗転）

挿入歌「」

<第6場>

（中央椅子にめめ。上手側に腕組をして立つエナ。照明。）

エナ メミルとレイカねえ…。最近余計不仲というか、気まずそうというか。
めめ …メミルさんって、負の感情がないって。
エナ えっ、そんなことって、ある…？！
めめ 大変なときに生まれたから、って。
エナ そっかー。そういうことかー。
めめ わかるんですか。
エナ 同じ年の生まれだしね。
めめ レイカさんとメミルさん、わかり合えないですか。
エナ うん。でも…、感じ方は違うけど、ずっと人の期待に応えなきゃって思っている2人だからね。
なんとかなるかもしれないよ。
めめ そうですよ！
（上手よりゆうり。）
エナ あ、ゆうり。
ゆうり さっきレイカと話してきた。予想通り焦ってる。
めめ 焦ってるって…。
エナ ネットキャラクターってよくあるからね。
ゆうり 僕たちもちょっと怖くなることあるよ。色々やった末に、元の姿を忘れられるかもって。
めめ ……。
エナ 本来の姿がわからなくなって、自分で自分を見失った子から落ちる。……わかりたくないけど、それが現実かな…。
（沈黙。三人だんまりだったが。）

めめ つくったら…、どうかな。

エナ ゆうり え？

めめ 私たちの「ありのまま」を出して、人の期待じゃなくって、自分たちで作った「私たち」を覚えていてもらえるように。

ゆうり でも作るって言ってもどうするんだ？ 僕たちは人間からの指示がないと動けないぞ。

めめ そっかー、そうだよー…。(ふと気づく) あ、ある。

ゆうり ある？

(めめ、下手山台にある台本を取ってくる。)

エナ それ、メミル用の台本じゃん。

めめ そう、私、エナ、ゆうり、メミルさん、そしてレイカさんの五人のコラボもの！

ゆうり メミルのやつ、レイカともめたから捨てていったのか？

めめ そうかもしれない。でも、これを使おう。

エナ ……レイカとメミルはどうするの？

めめ わかんないけど、まずは、行動なんですよ、エナ先輩！

エナ ははは、言うようになったね。

ゆうり D o n ' t t h i n k ! F e e l !

(暗転。)

<第7場>

(中央椅子にメミル。照明。メミルのもとへ台本をもった三人めめゆうリエナ、上手より来る。)

挿入歌さだまさし「桜の樹の下で」

めめ メミルさん！

メミル めめちゃんたち。どうしたの…って、それ…。

めめ この台本捨ててたよね。でもせっかくだし、やろうって。

メミル あたしはいいけど、この台本、レイカは悪役だし、三人もモブ扱いで雑かなって…。

ゆうり (おおげさに) 人生なんて、筋書きのない、ドラマだし、何より、観客は、メミルとレイカの、可愛いーい姿を期待してるよ。

エナ ダサナルシストイケメン男子…。

ゆうり だから悪口なのか褒めてるのか全然わからないんだけど。

メミル …ふふっ。変わらなくていいなあ、みんな。

めめ あ、笑った。

ゆうり こういう時こそ、自然体が一番だよ。

めめ さてさて、台本はあるけど…(ページをめくりながら) あれ？

エナ どうしたの？

めめ この設定、ちょっと見て。

ゆうり んん…？ え、設定ペラッペラじゃん…。

エナ こんなの設定ないのと同じだよ。

めめ いやいや、裏を返せば何でも決め放題！

メミル じゃあ色々いじっていいのかな？

めめ いいでしょ！ 都合の悪いところは変えちゃおう。

ゆうり …というかさ、いっそのことキャラ台本、無視すれば？

めめ え？

エナ 本気で言ってる？

ゆうり 設定も薄いなら、もういっそ、僕たちらしさをゼーんぶ出して作っちゃえば？

めめ あーそれいいかも！ 自然体が一番楽しいし！

ゆうり よかった。ということで、もう録音してる。(ポケットからボイスレコーダーを出して、高々と掲げる。)

エナめめメミル 早くない！？

ゆうり うん。早ければ早いほどユーザーも、あれ、どうだったっけ、ってなるかなって。

エナ いつの間にしっかりしたレコーダー用意したの。まさか、普段から使ってる…！？

ゆうり 使ってないわ。ストーカーじゃあるまいし。

メミル じゃあなんで持ってるの？

ゆうり え、使うときあるかなーって。

めめ ……ゆうりが疑われる理由わかりやすい。

ゆうり 全部、録音してるぞ。

めめ まあ、それは置いて、(カメラを出してくる) 写真、撮ろ。

ゆうり なんだよ、突然。

めめ 後で見えて思い出せるように。幸せな一枚の写真が、いつか、力をくれる時だってあるでしょ。
(写真を撮る)

エナ ……。めめ。

めめ うん、わかってるよ。
(めめがメミルにもっていたカメラを渡す。)

メミル えっ、…何で。

めめ 私たちだけで写真を撮っても…ね。いるでしょ、もう一人。

メミル ……。そうだね。まずは、行動、だったね。

ゆうり お、いい方向に向いたじゃん！

エナ 結局、二人の間を温められるのはメミルとレイカ。本人たちだけなんだよね。

ゆうり レイカの笑顔の写真、ばっちりたのむよ！

めめ うん。一番幸せでいい表情だから！

メミル そうだね。…行ってくる。

めめゆうり 行ってらっしゃい。
(メミルが下手へ立ち去り、暗転。)

挿入曲「」

<第8場>

(めめ中央椅子。エナとゆうりは各々台本を見ている)

めめ ……とは言ったけどさ……。台本って書くの難しすぎない！？

ゆうり 普段は人間が送ってくる台本しか見てないからな。見慣れてはいるけど作ったことはないし。

エナ 言い出しっぺが一番先に音を上げてどうするの。

めめ 仕方がないじゃん！思ったより難しいし、ノープランだったし。

エナ ノープランって認めるのね……。

めめ そういう二人だって何か話のアイディアあるわけ？

エナ え、だ、台本が設定ペラペラだからなーどうしようかなー……。

めめ ほら、エナだってごまかしてる。

ゆうり ノープランの言い出しっぺと同じ気がするんだけど。

めめ そういうゆうりは何かあるわけ？

ゆうり え？そうだなー。あ、白馬の王子の話とか。

エナ ゆうりはどちらかと言ったら蛙の王子でしょー。

ゆうり ちょっとそれはひどくないか……？

めめ ふうん。ほかには？

ゆうり そうだな……眠れる森の美女とか、ラプンツェルとか……。

エナ どうしてゆうりから出てくるものは小さい子が好きそうな童話ばかりなの？

ゆうり え？そうか？主役、脇役、悪役、それからモブは物語の定番だろ？

エナ ゆうり話聞いてた！？いつもメミルが主役でレイカが悪役にされるからそれを回避しようって今作ってるのに。

ゆうり あー、うん。知ってる。

エナ じゃあもうちょっと考えなさいよ。ねえ、めめ。

めめ え、いいじゃん。姉妹が子供にしか見えない巨大な生き物に会う話とか、空から女の子が降ってくるあの話とか…。

エナ ええ、どこで知ったの、そんな話。

めめ 人間さんがもしもの世界線の動画で教えてくれたよ。楽しかったな～あれは。

ゆうり それを言うなら、お互いに正体を隠しているスパイ一家のあの話も面白かったよな。

めめ ああ、あれね！確かゆうりが……。

エナ もー！思い出話はここまで！どこまで目的それるつもりなの？

めめ あ、あはは。つい楽しくなっちゃうし、こういうのも台本作りの一つになるっていうか。

ゆうり そうそう。めめの言う通り。

エナ 台本が思いつかないゆえの現実逃避に聞こえるのは私だけ？

めめ・ゆうり さあ何のことですかね……。

エナ まあ実際思いつかないのはみんな同じか。私たちの日常とは言え使えるかどうか。

ゆうり 最近の様子は録音してるけど。

めめ 見せて。……おー、確かにいろいろあるね。エナの可愛い会話フォルダ……？

ゆうり げっ、そ、それは。

エナ （台本を見ながら）早くその日常録音集見せて、ナルシスト盗聴魔。

ゆうり なんだその呼び方……。

エナ （音源を受け取って見ながら）うーん……どれを使っていいのか。

めめ そのまま全部使うわけにはいかないしね。

ゆうり 僕たちにもプライベートっていうものがあるし。

エナ 日々人間の活動に応え続けてる私たちにプライベートもないよ。
めめ 夏休みに言ってた私たちに休日って概念ないのと同じか。
エナ そうね。でも、こうやって見てると私たちの録音集って愚痴も多いね。
ゆうり 人間が動画とかで見てる姿ってある意味演技もあるからな。
エナ 動画外でも綺麗事ばかり言っているわけじゃないからね。
めめ そうかな？私は平気。
ゆうり やっぱりめめはいい意味で経験浅いからいいな。
エナ ネット世界って悪い面も山ほどあるからね。私たちなんて選択肢ゼロでいろんなもの見てるからね。
ゆうり 慣れてきたから何も感じなくなっただけだな。
めめ ええ！？もったいないよ！動画なんていろいろあるのに！
エナ そう言えた時期もあったけど過ぎ去ったよ……。
ゆうり まあでも、悪いものだけでなく良いものも多いってのが普通だからな。
めめ ……わかった。台本、自信もってできるって言いきれはしないけど。
エナ 何か思いついたの？
めめ とりあえず、明るい部分も暗い部分も両方含めた台本書く。
ゆうり それだと悪役出てこないか？
めめ 大丈夫。暗い部分は「周りの環境」の話だよ。光も闇もある。それがこのネット世界なんですよ？
エナ そうね。
めめ 二人やメミルさん、レイカさんは私よりもずっと多く活動してるから、ネット世界のこと、わかってるでしょ。だから使えるかなって。
ゆうり 全部理解してるとは言わないけどな。
めめ それでもいいよ。とりあえず、いろいろ書いてみよ！
エナ・ゆうり わかった。
(暗転)

<第9場>

(ホリゾン特青。広めピン。レイカが鏡に入る前・黒台本手持ち)

メミル あった、レイカ！
レイカ ……何。
メミル あのね、めめちゃんたちが、あの五人の台本を変えて新しいのを作ってくれたの。
レイカ だから何。私以外でやってよ。
メミル レイカ。レイカはどんな姿を覚えててもらいたいの。
レイカ はあ？
(少しの間があり、メミルがまっすぐ。)
メミル 私はレイカみたいに負の感情がない。…だから全部わかるとは言わないよ。
レイカ ……。それ、初めて聞いた。

メミル うん。言ってなかったから。

レイカ ……。

メミル でも、いいこともあったよ。レイカの喜怒哀楽の姿、感情豊かで憧れてた。

レイカ 何で？ 悲しいとか辛いとかない方がいいじゃん。

メミル そうかも…だけど。私、レイカが辛かったことも全部越えて立った姿が一番好きだった。

レイカ そりゃ、いろいろあるからね。

メミル 私が一番大好きなのは、レイカの笑顔だよ。負の感情があるから、よりよかったんじゃない？

レイカ ……。

メミル 私、そんな「豊かな感情」って宝物をもったレイカ、みんなに忘れてほしくないよ。

レイカ …何を言うかと思えば。

（メミルが台本を差し出す）

メミル これ、めめちゃんたちが考えてくれたやつ。

（レイカが台本を開く）

レイカ …内容…ないけど。これキャラ台本の意味ある？

メミル 設定ペラッペラだから自由にやるって。

レイカ 何それ。いいの？

メミル もう、みんなの「ありのまま」を思いっきり、だしちゃおう！って。

レイカ …そう。…ふふ。

メミル あ…。(写真を撮る)

レイカ ちょ、何いきなり撮ってるの！？

メミル レイカの笑顔も撮ってきてって言われたし。

レイカ …ふーん。

メミル 本当は、ちょっと嬉しいくせに。

レイカ まあ…ね。楽しそうだな、とは、思った。

（照明。2人のところにめめが走りこんでくる）

めめ （膝に手をついてハアハアいいながら）今の言葉、聞いたよー！ よかった～。

レイカ めめ！？ いつの間に来たんですか！ ゆうり、エナも！

ゆうり 今でしょ！

エナ 古すぎ。なんかよさそうな雰囲気。

メミル 一応…話した。ねえ、レイカ。…どう？ この台本、みんなで作ってみようよ。

レイカ ……。

（少しの間、沈黙）

レイカ …全く、変なやつらばかりですよ。

ゆうりエナめめメミル レイカもね！（みんなで笑う）

レイカ それでも、ここまで考えてくれて、嬉しかった。私も…ありのままの「彩夜レイカ」でいたい。

めめ じゃあ、一緒にやってくれるの！？

レイカ うん。

ゆうり よっしゃ！ これで全員揃ったな！

エナ よかったー！ ホントによかった！

メミル （あらためて、レイカをみる）またレイカの笑顔見られるの嬉しい！

レイカ 変わらないね、メミルは。

ゆうり おっと、それは皆同じだろ。可愛い姿も含めて。

エナ 友情と絆の素敵な時間……壊すゆうりも変わんないよね。

ゆうり え、なんで。どこが。

めめ さ、みんなで写真撮るよー！

（椅子を舞台最前列へ動かして、カメラをセット。全員が正面をみて、笑顔でポーズ。）

（暗転）

挿入曲「

」

<第10場>

（ホリゾン特緑+トツサス。五人がそれぞれ部屋に入ってくる。）

めめ すっごいよ！ 大人気動画になってる！

エナ レイカの印象もかなり変わってるよね。

ゆうり 元の台本ガン無視だけだな。

めめ それがいいんでしょ。

メミル レイカの笑顔、久しぶりに嬉しかったのー！

レイカ もう…メミルはそればかりね。

ゆうり いいじゃん。それだけ愛されてるってことだろ？

レイカ ゆうりも相変わらず格好つけてばかりですね。

ゆうり 何で性格変わるんだよ、冷淡令嬢！

レイカ シャラップ！

エナ ……なんか、さらににぎやかになったね。（みんなで笑う）

メミル 今度はもっと大きな台本作れば！？

エナ どれくらい？

メミル うーん…四時間分！

エナ どれだけ作ったらそんな量になるのよ！

ゆうり それに、そんなことしたらあの時の長期休暇でバテた、めめ、再来！かもな。

めめ それだけは勘弁して～！

メミル え？ めめちゃんなら喜ぶと思ったのに。

めめ えええーっ。

エナ さらにメミルの活動量おばけが出たね。メミルからしたら、ちょっときつかな？くらいでしよ。

メミル そうだけど…楽しかったら短くかんじないかなーって。

レイカ …限界知らずなもの個性ですかね。

ゆうり 実際あのキャラ台本から、みんなももっと明るくなったし。

めめ あっ、そういえば、また新入りさん、入ったって聞いた！

メミル えっ、本当！？

めめ 風のうわさってやつ？

ゆうり タイミングが合えば会えるかもな。

レイカ 何言ってるんですか、ゆうり。

ゆうり え？

レイカ どうせ私たちなんかずーっと先まで、まだ何十年も過ごしていくんですから。そのうち会えますよ。…行動していれば、すぐにでも。

めめ 確かに！ レイカさんいいこと言う！

レイカ ただ事実を言っただけなんだけど。

めめ 探しに行こ、今すぐ！ 悩める乙女の夢、みんなで一緒に叶えなきゃ！
(めめがゆうりの手をつかむ)

ゆうり え、何で僕まで？

めめ Don' t t h i n k ! F e e l ! まず、行動！でしょ。あと、人数はいた方がいいし。

ゆうり (やれやれ、の感じで) はい、はい、相変わらずだな。
(めめ、ゆうりを連れて下手へ走り去る)

エナ …あの勢いで突撃されても困るでしょうに。

レイカ まあ、にぎやかっことは、相手に伝わるでしょう。

メミル めめが一番仲間大好きだからね！

レイカ ちょ、ちょっとメミル！ それはみんなそうだし…！

エナ はいはい。張り合わなくてもわかる。(みんなで笑う)
(その時、スマホが鳴る。めめ、ゆうり、下手より戻ってくる。)

めめ あー、呼び出されちゃったか。

エナ あ、戻って来た。

ゆうり 呼び出しには出ないとな。やっぱり、プロとして。

めめ 今日は何をするのか楽しみ！

メミル 今日もキレイな夕日が見られるといいなー。

レイカ ホントはしたかったこと、まだまだ、たくさんあります！

エナ じゃ、そろそろ行きましょうか。

めめ そうだね！

五人 (舞台最前列へ、正面5方向を向いて) 行ってきます！
(ホリゾン特緑のみ。幕。)

m u s i c V . S (大漠波新) o r のだ (大漠波新)